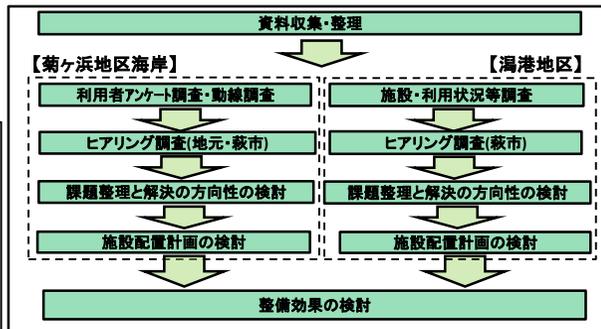


萩港における港湾施設を活用した観光振興のための基盤整備検討調査

○（調査の背景・目的）菊ヶ浜地区海岸は、利用者等のアンケート調査、動線調査、地元ホテルや萩市へのヒアリング調査を基に、海岸保全や観光振興等の観点から施設配置計画を検討する。潟港地区は、クルーズ船寄港時の旅客者の動線調査、萩市へのヒアリング調査を基に、今後のクルーズ船の寄港増加、訪日外国人のインバウンド受入環境整備も踏まえた施設配置計画を検討する。

（調査の手順）



調査成果

■菊ヶ浜海岸における観光振興を踏まえた施設配置計画の検討

- (1) 利用者アンケート調査・動線調査
- アンケートでは、砂浜の侵食の改善要望が20~30%あった。
 - 海岸利用者を対象とした動線調査の結果、遊泳区域内での砂浜の侵食により、利用者数への影響が顕在化している結果となった。
- (2) ヒアリング調査（地元ホテル、萩市）
- 菊ヶ浜海岸沿いのホテルへのヒアリングでは、砂浜の侵食が原因で、地引網体験が困難、海の家の出店が減少、露天風呂や屋外チャペル等に支障を来しており、観光客・宿泊客の増加に向けた砂浜の復元と保全の強い要望があった。
 - 萩市からは、ビーチバレー等の開催に支障のない浜幅確保等に加え、防災面から砂浜の侵食対策、背後市道等への風波浪による砂堆積の抑制、維持管理の軽減に繋がる海岸保全施設の整備の要望があった。
- (3) 課題整理と解決の方向性の検討

浜崖・奥行不足等による砂浜の魅力不足や動線の分断、市道への飛砂等の課題整理と解決の方向性を検討した。

(4) 施設配置計画の検討（図1）

現状の打上げ高さに対する背後地盤高の不足、砂浜の侵食による海岸保全上の課題に対し、漂砂シミュレーションによる将来予測を実施し、対策案の選定を行った。

- ①西側の高潮、砂浜侵食対策：打上げ高さから必要となる防災上の目標浜幅40mを維持するため、初期養浜30m+突堤設置1基を整備する。
- ②東側の高潮、飛砂対策：打上げ高さから必要となる護岸高上げ(0.5m)を整備し、市道への飛砂堆積の緩和も兼ねる。

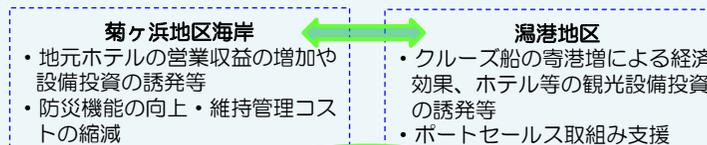


図1 菊ヶ浜地区海岸の海岸保全施設配置計画図(案)と萩市・地元等の意見

■潟港地区の港湾施設ユニバーサルデザイン化の検討

- (1) 施設・利用状況等調査
- 港湾施設の老朽化等の調査、クルーズ船寄港時の旅客者の港湾緑地内の動線調査を実施し、現状の課題を把握した。
- (2) ヒアリング調査（萩市）
- 萩市意見では、港湾施設の補修・機能改善、スロープ・園路・トイレのユニバーサルデザイン化等対応が求められている。
- (3) 課題整理と解決の方向性の検討
- 管理施設の老朽化、外国人観光客の出入口としての魅力不足、ユニバーサルデザイン未対応等の課題整理と解決の方向性を検討した。
- (4) 施設配置計画の検討
- クルーズ船寄港時の受入環境整備、イベント時等の環境整備による利活用促進に向けた施設の改善について検討した。

■整備効果の検討



萩港全体

- クルーズ船寄港時の萩市内観光ルートのひとつに菊ヶ浜地区海岸を組み込むことで、外国人観光客が白砂青松の砂浜等の各種イベントの魅力の情報発信し、萩ブランドの向上によるさらなる観光客増加を期待
- 菊ヶ浜地区海岸の認知度・魅力の向上による外国人観光客のリピーターやホテルのインバウンド観光収益の増加を期待

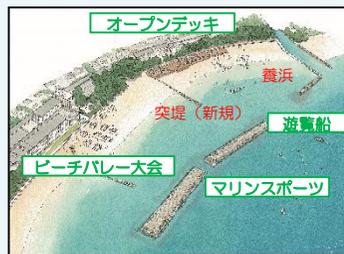


図2 菊ヶ浜地区海岸の賑わいの創出

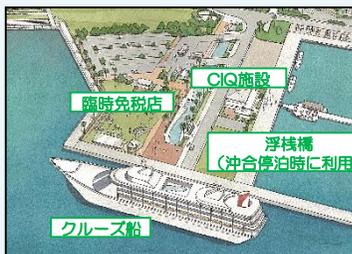


図3 潟港地区の賑わいの創出

基盤整備の見込み・方向性

- 菊ヶ浜地区海岸
 - 西側の高潮、侵食対策としての突堤、養浜の整備は、必要な浜幅の確保について、県で詳細な検討を進め、東側の高潮対策としての護岸整備は、萩市や地元関係者ととも、道路管理や景観も踏まえ、検討を進める。
 - 平成28年度に事業化に向けた関係機関との調整を行い、平成29年度以降の事業着手に向けて取り組んでいく。
- 潟港地区
 - 平成27年度から港湾施設の改修・補修を行っており、引き続き老朽化対策を実施するとともに、ユニバーサルデザイン化への対応についても、萩市と調整を行い、事業実施に向けて取り組んでいく。

今後の課題

菊ヶ浜地区海岸では、砂浜やビーチを利用した地元ホテルの設備投資や各種イベント等の開催による観光需要や観光客の増加による賑わいの創出等について、萩市やホテル、観光協会等の民間が主体となり進めていく必要がある。

潟港地区では、港湾緑地の利活用促進、CIQ施設（入出国管理、税関等）の機能拡充、クルーズ船寄港誘致の取り組みについて萩市と民間が連携して進めていく必要がある。

萩港における港湾施設を活用した観光振興のための基盤整備検討調査			
調査主体	山口県		
対象地域	山口県萩市	対象となる 基盤整備分野	港湾

1. 調査の背景と目的

萩港は、山口県北部の日本海側に位置する地方港湾で、昭和2年の開港以来、大陸貿易の窓口や離島航路の発着基地として栄え、地域経済の発展に重要な役割を果たしている。

萩市は「萩まちじゅう博物館で体感するゆったり・じっくり観光」を戦略に掲げ、観光客と市民が交流する観光を目指した取組みが進められてきた。

萩港のうち、菊ヶ浜地区海岸は、「快水浴場百選」「日本の夕陽百選」に選定され、白砂青松の海岸として、ビーチや砂浜を利用したイベントが毎年開催されている。しかし、砂浜侵食、高潮・飛砂対策等、防災面の課題に対する施設整備が求められている。一方、潟港地区では、国内外からの観光客のクルーズ船寄港地としての役割を果たしているが、港湾施設の老朽化、ユニバーサルデザイン化等への対応が求められている。

本調査は、菊ヶ浜地区海岸の利用者等のアンケート調査、動線調査、地元ホテルや萩市へのヒアリング調査を基に、海岸保全や観光振興等の観点から施設配置計画を検討する。潟港地区では、クルーズ船寄港時の旅客者の動線調査、萩市へのヒアリング調査を基に、今後のクルーズ船の寄港増加、訪日外国人のインバウンド受入環境整備も踏まえた施設配置計画を検討する。



クルーズ船寄港時の様子
(2015.4.17) 英国クルーズ船
「カレドニアン・スカイ」
[出典]山口県産業戦略部 HP



「快水浴場百選」「日本の夕陽百選」
に選定されている菊ヶ浜地区海岸
[出典]山口県 Photo 素材集

図1 萩港における調査対象箇所（菊ヶ浜地区海岸、潟港地区）

2. 調査内容

(1) 調査の概要と手順

調査は、図2の流れで行った。

①資料収集・整理

萩地域の観光資源や観光戦略、国内外からの観光客数の動向、菊ヶ浜地区海岸の海水浴客や砂浜を利用したイベントの内容や参加者数、潟港地区のクルーズ船の寄港状況や港湾緑地の利活用の現状についてのデータを収集・整理した。

②菊ヶ浜海岸における観光振興を踏まえた施設配置計画の検討

菊ヶ浜地区海岸において海水浴シーズンから秋季にかけてアンケート調査、動線調査を実施し、海岸利用者の実態や離岸堤・突堤等の海岸保全施設の印象や要望等を把握した。さらに、背後のホテルや萩市関係部局にヒアリング調査を実施し、現状と課題、改善要望を整理した。

砂浜の侵食や高潮に対する天端高の不足、背後道路への土砂堆積等の現状の課題解決のため、防災上の観点から対策案を選定し、漂砂シミュレーションによる将来予測を行い、合わせて背後のホテル等の利活用促進の観光振興、賑わいの創出の観点から施設配置計画を検討した。

③潟港地区の港湾施設ユニバーサルデザイン化の検討

クルーズ船寄港時の旅客者の動線調査、萩市関係部局のヒアリング調査、施設の現地調査等から港湾施設の課題を把握し、クルーズ船寄港時、イベント時、平常時に求められる機能とゾーニングからの施設配置計画を検討した。

④整備効果の検討

菊ヶ浜地区海岸の海岸保全施設の整備による防災と観光振興、潟港地区の港湾施設の機能保全・向上の観点から、整備効果を検討した。

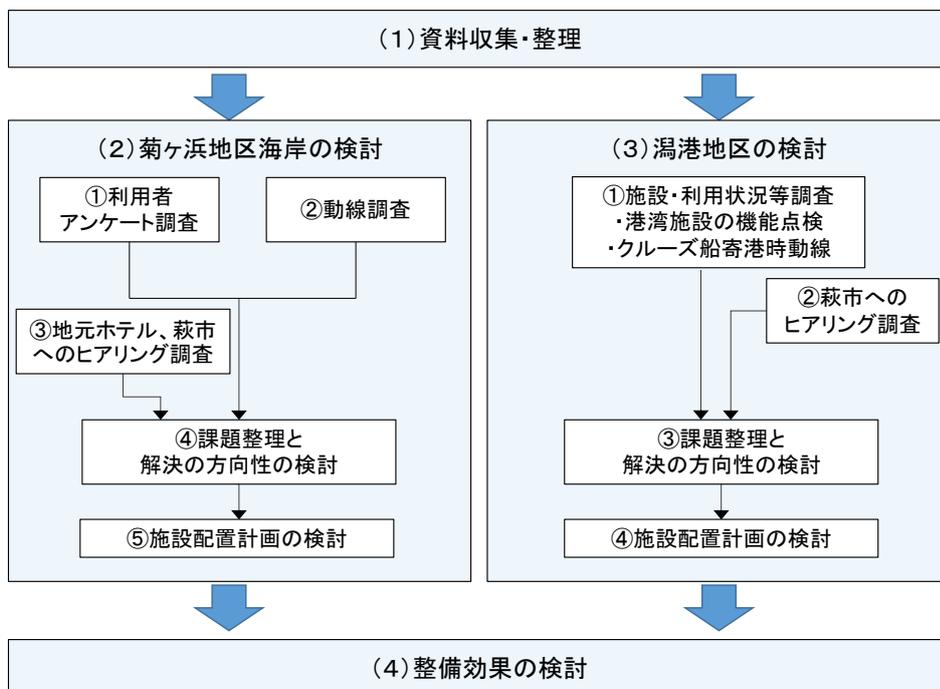


図2 調査の手順

(2) 調査結果

①資料収集・整理

1) 萩市の観光の概況

萩市は、平成 27 年 1 月から放映の NHK 大河ドラマ(花燃ゆ)のゆかりの地として、また、平成 27 年 7 月に「明治日本の産業革命遺産」のうち、萩の 5 資産が世界遺産に登録され、国内外からの認知度が向上し、観光客増加が期待されている。萩市では、萩城跡・指月公園、萩博物館、萩城下町等での、Wi-Fi 環境整備、タクシー会社でのクレジットカード対応等、訪日外国人の観光客増加を図るためのインバウンド受入環境整備を進めている。

市内ホテルでも、海外旅行社との観光セールス等、外国人観光客増加に向けた取り組みを進めている。

萩地域への観光客数は、ほぼ横ばいで推移していたが、平成 27 年は「文と萩物語『花燃ゆ』大河ドラマ館」の開館、明治維新 150 年関連事業等で、年間約 200 万人と大幅に増加している。外国人観光客も平成 23 年度に減少したが、その後増加傾向にあり、平成 27 年は約 6,000 人が訪れている。

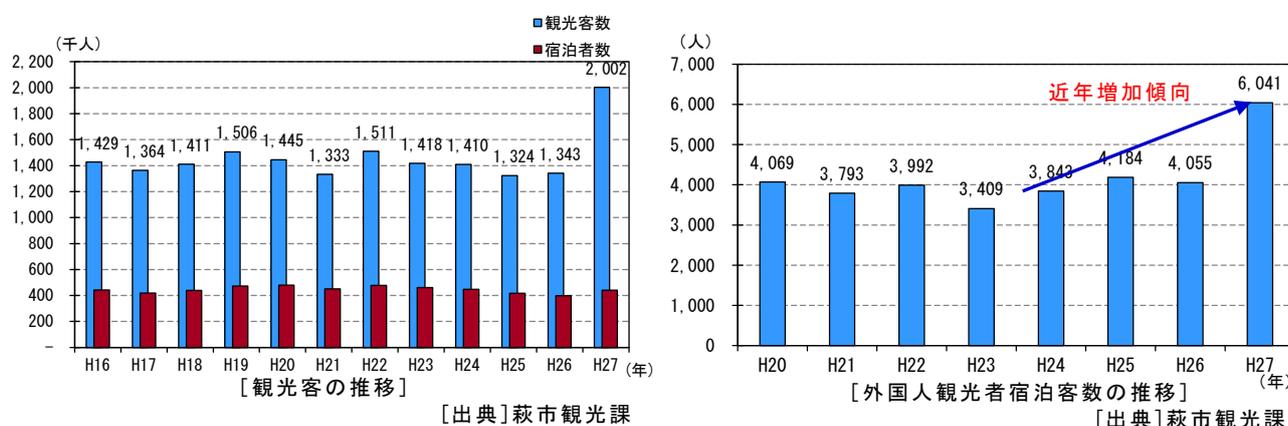
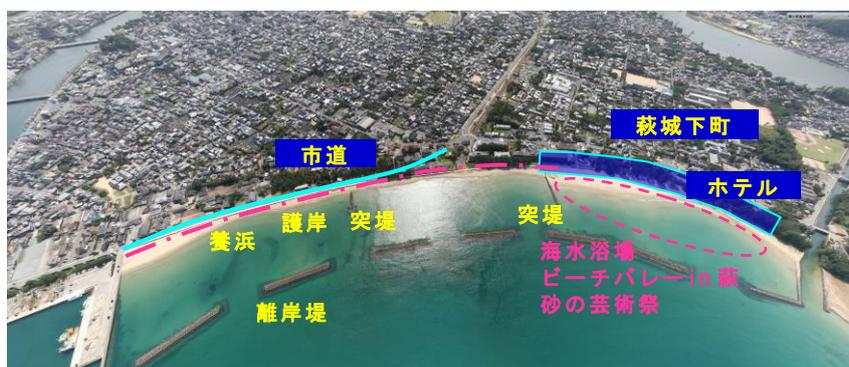


図 3 萩市（萩エリア）への観光客の来訪状況

2) 菊ヶ浜地区海岸の観光・イベント等の概況

菊ヶ浜地区海岸は、毎年 10 万人を超える海水浴客が訪れ、周辺ホテルの貴重な観光資源となっている。また、山口県唯一のビーチバレー大会や砂の芸術祭等の砂浜を利用したイベントが毎年開催され、スポーツ、レジャー等の賑わいの場となっている。



ビーチバレー大会の開催状況
[出典]萩市スポーツ振興課



砂の芸術祭の開催状況
[出典]萩市文化・生涯学習課

図 4 菊ヶ浜地区海岸の海岸保全施設とホテル、観光・イベントの現状

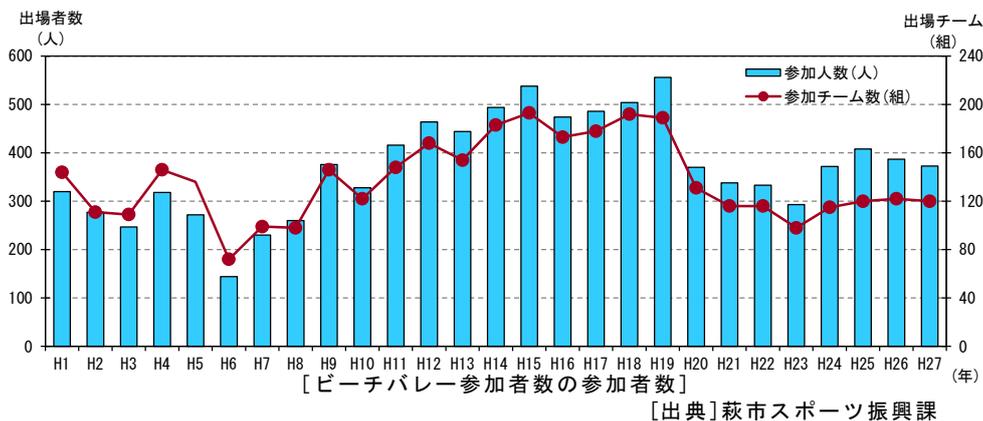
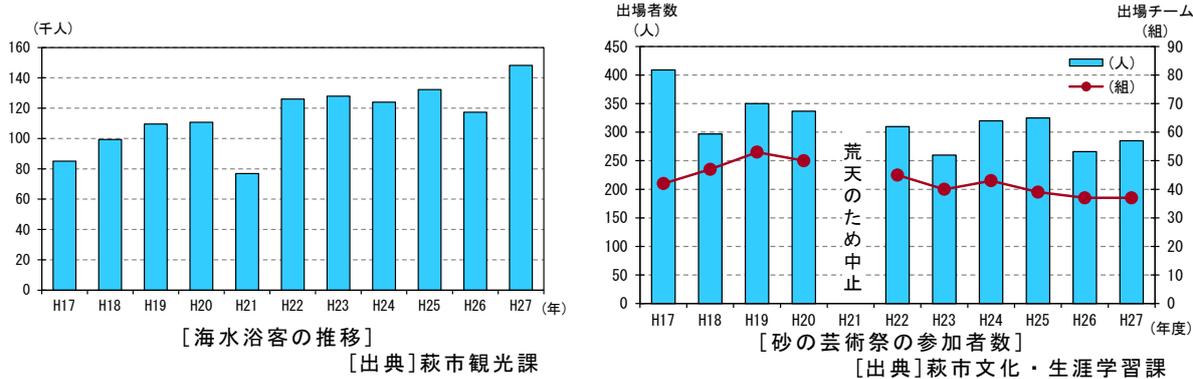


図5 菊ヶ浜地区海岸の砂浜等を利用した賑わいの現状

2) 潟港地区の観光の概況

潟港地区は国内外からのクルーズ船寄港地、萩市の玄関口としての機能を果たしている。平成23年～平成26年までは、寄港回数・旅客者共に少なかったが、平成27年は寄港回数が8回、乗客数が1,400人と大幅に増加している。平成27年に、萩の5資産が世界遺産に登録され、国内外からの認知度が向上し、今後も観光客の増加が期待される。



図6 潟港地区の港湾施設の現状

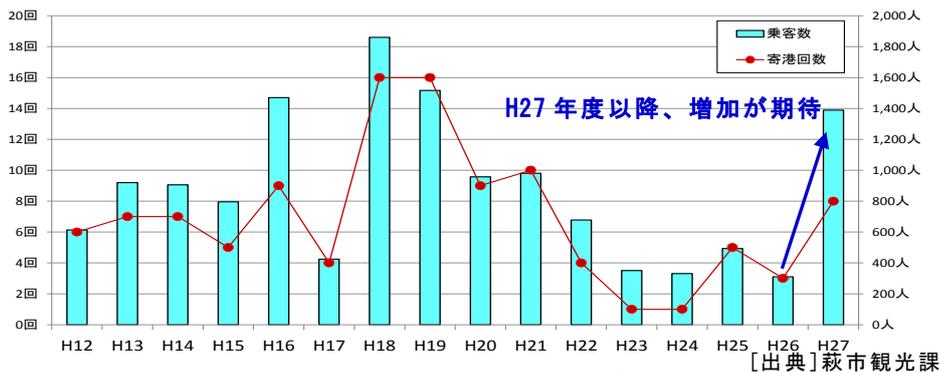


図7 萩港地区のクルーズ船寄港状況

② 菊ヶ浜海岸における観光振興を踏まえた施設配置計画の検討

1) 利用者アンケート・動線調査

菊ヶ浜地区海岸の地元ホテルの宿泊客を対象とした、菊ヶ浜地区海岸の砂浜や海岸保全施設（突堤、離岸堤等）に対する印象や今後充実すべき施設等へのアンケート結果は以下のとおりである。

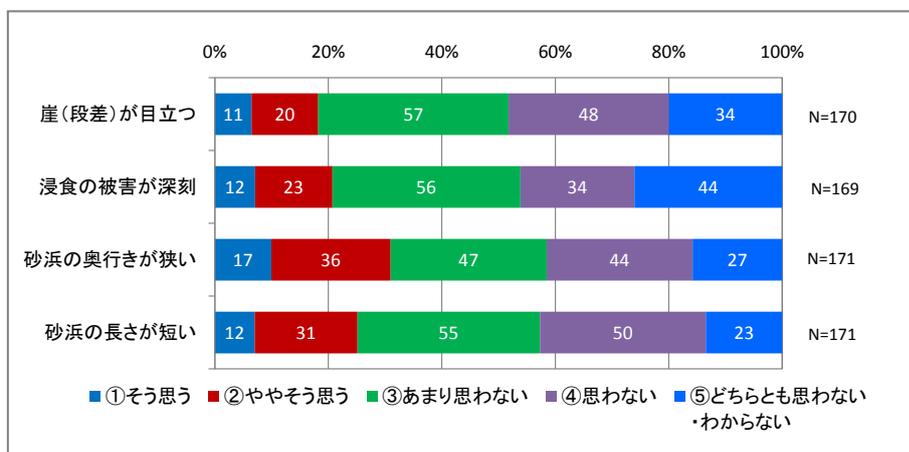


図8 菊ヶ浜地区海岸のアンケート結果（砂浜の印象について）

また、海岸利用者を対象とした動線調査を対象に実施した（8～10月・計5日間、土日祝日）。その結果は、図9のとおりである。遊泳区域に指定されているエリア①では、同じ遊泳区域のエリア②の約1/5の利用者数で、砂浜の侵食により、ビーチ利用への影響が顕在化している。

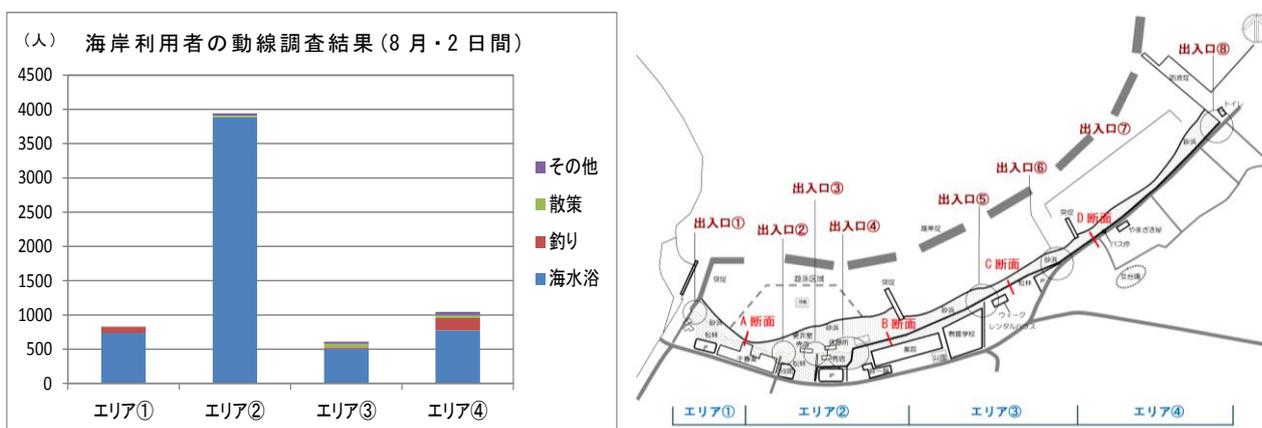


図9 海岸利用状況の調査結果

2) 地元ホテルや萩市からの意見・要望の把握

菊ヶ浜海岸沿いの地元ホテルへのヒアリングの結果、近年の砂浜の侵食が原因で、地引網体験が困難、海の家の出店が減少、露天風呂や屋外チャペル等に支障を来しており、観光客・宿泊客の増加に向けた砂浜の復元と保全の強い要望があった。

また、地元萩市からは、ビーチバレー等の開催に支障のない浜幅確保等に加え、防災面から砂浜の侵食対策、背後市道等への風波浪による砂堆積の抑制、維持管理の軽減に繋がる海岸保全施設の整備が求められている。



[出典] 萩市観光課

[出典] 萩市土木課

図 10 菊ヶ浜地区海岸における砂浜の侵食及び市道への飛砂

3) 課題整理と解決の方向性の検討

利用者アンケート調査、動線調査及び地元ホテル、萩市ヒアリング調査結果から得られた現状の課題及び解決の方向性を表 1 に整理する。

表 1 課題整理と解決の方向性

現状の課題	課題の根拠※			解決の方向性
	①	②	③	
市道への飛砂	●		●	護岸や砂浜形状の改善による飛砂対策 維持管理による撤去
遊歩道の魅力・快適性不足	●	●		遊歩道の連続化
通行者の転落等の安全性		●		景観に配慮した安全対策の検討
出入口の動線分散、松林の荒廃		●	●	出入口の集約及び既存出入口の改良 誘導サインの設置
海岸利用施設の魅力・快適性不足	●		●	休憩施設、トイレ、駐車場等の施設の充実・魅力化
海岸（魅力）の PR 不足	●			イベント開催等による海岸の魅力化 海岸の魅力発信（HP、ツアー、サイン等）
海岸施設・防災事業への理解不足	●			広報（現地サイン、HP、パンフレット等）による周知、PR
浜崖・奥行不足等による砂浜の魅力不足、施設の安全性不足（露天風呂）	●		●	砂浜の侵食・堆積対策（構造物、養浜等）
浜崖による動線の分断		●		砂浜の侵食対策（構造物、養浜等）

※課題の根拠：①アンケート調査、②動線調査、③地元ホテル・萩市ヒアリング

4) 施設配置計画の検討

現状の打上げ高さに対する背後地盤高の不足、砂浜の侵食による海岸保全上の課題（図 11）に対し、表 2 に示す対策案（①突堤、②人工リーフ、③離岸堤改良）を実施した場合の将来予測（漂砂シミュレーション）を行い、対策案の選定を行った。



西側の要対策箇所

- ・ 打上げ高さに対し、背後地盤高が不足している。
- ・ 対策なしの場合、将来的に汀線の後退（砂浜侵食）が進行し、ホテルの経営等に支障を生じる恐れがある。

東側の要対策箇所

- ・ 打上げ高さに対し、護岸高が不足している。
- ・ 対策なしの場合、将来的に汀線の後退（砂浜侵食）が進行し、市道への砂堆積による交通への影響が生じる恐れがある。

図 11 菊ヶ浜地区海岸の海岸保全上の課題

表 2 菊ヶ浜地区海岸の対策案の検討

要対策箇所		西側	東側
防災上の課題		・ 現状の打上げ高さに対し、背後地盤高が不足	・ 現状の打上げ高さに対し、護岸高が不足
対策の目的		打上げ高さから決まる防災上の目標浜幅の確保	
▽			
対策案①、②、③の漂砂シミュレーションによる汀線変化量の将来予測			
対策案の比較検討	①突堤の設置	現状維持の効果あり ○	効果は僅かで、砂浜侵食が進行 △
	②人工リーフ	効果は僅かで、砂浜侵食が進行 △	効果は僅かで、砂浜侵食が進行 △
	③離岸堤改良	効果は僅かで、砂浜侵食が進行 △	効果は僅かで、砂浜侵食が進行 △
▽			
		漂砂シミュレーションによる対策案の汀線（浜幅）の将来予測	漂砂シミュレーションによる将来地形予測と打上げ高チェック
対策案の選定		【養浜＋突堤の設置】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 打上げ高さから必要となる防災上の目標浜幅（40m）を確保するための養浜を実施 ・ 初期養浜（30m）＋突堤設置により漂砂シミュレーションで30年後も目標浜幅（40m）の維持が可能 	【護岸嵩上げ】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 維持管理を最小限になるよう護岸嵩上げで対応 ・ 護岸嵩上げ（50cm）を実施することで、将来地形（浜幅）でも打上げ高さを満足することを検証

比較の結果、西側の対策は、②、③の対策効果は僅かであったが、①（突堤の設置）は現状を概ね維持できることが確認できることから、養浜（30m）との併用で対応する方針と

した。また、東側では、①、②、③の対策の効果は僅かであったため、護岸嵩上げ（50cm）で対応する方針とした。

[西側の高潮、砂浜侵食対策] 打上げ高さから必要となる防災上の目標浜幅 40m を維持するため、初期養浜 30m+突堤設置（1基、不透過）を整備する。
 [東側の高潮、飛砂対策] 打上げ高さから必要となる護岸嵩上げ（0.5m）を整備し、市道への飛砂堆積の緩和も兼ねる。

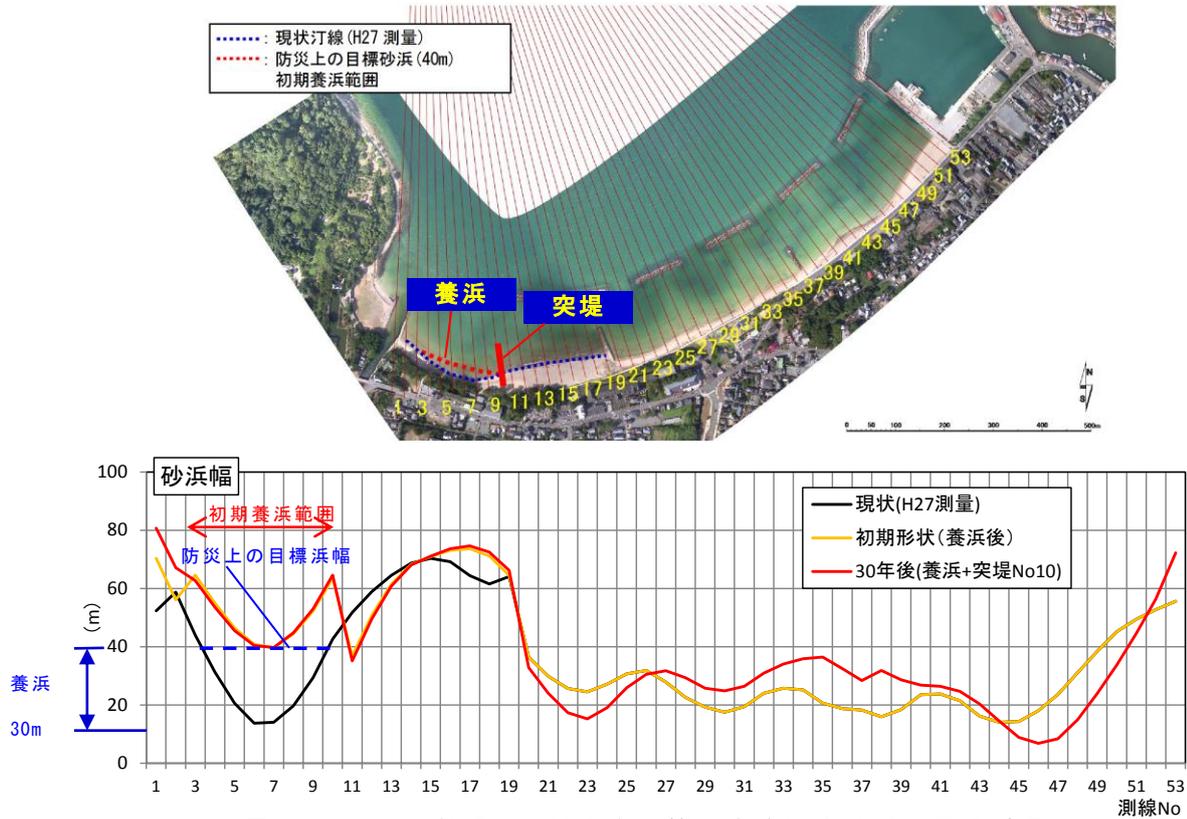


図 12 西側の高潮、砂浜侵食対策の実施による将来予測結果



図 13 菊ヶ浜地区海岸の海岸保全施設配置計画図（案）と萩市・地元等の意見

③ 潟港地区の港湾施設ユニバーサルデザイン化の検討

1) 施設・利用状況等調査

潟港地区の港湾施設の老朽化等の調査、クルーズ船寄港時の旅客者の港湾緑地内の動線調査を実施し、現状の課題を把握した。

2) 萩市からの意見・要望の把握

萩市へのヒアリングの結果、港湾施設の補修・機能改善、港湾緑地内のスロープ・園路・トイレのユニバーサルデザイン化等の対応が求められている。



図 14 潟港地区の萩市ヒアリング結果

3) 課題整理と解決の方向性の検討

施設現状調査及びクルーズ船入港時の外国人観光客の動線等調査、萩市関連部局へのヒアリング結果から得られた現状の課題及び解決の方向性を表3に整理する。

表3 課題整理と解決の方向性

現状の課題	課題の根拠※			解決の方向性
	①	②	③	
管理施設の破損、老朽化	●			車止めポール、防護柵・メッシュフェンス、門扉等の管理施設の改修による機能回復および修景
園路が活用されていない	●		●	緑地整備等による魅力の創出 車椅子利用者の散策路としての利便性の向上
芝生広場が活用されていない	●	●		イベントや臨時店舗等の誘致による賑わいの創出
シンボリックな親水空間（小河川）が活用されていない	●			レクリエーションの場としての魅力化・イベント実施
外国人観光客の出入口としての魅力不足・老朽化		●	●	入国エントランス等の整備の検討 浮棧橋の改修の検討
イベント拠点（ステージ）の老朽化	●	●	●	老朽化箇所の改修による修景
一部ユニバーサルデザインに未対応			●	階段への手すり設置及びスロープの設置等 身障者用の駐車場、トイレの改修

※課題の根拠：①施設現状調査、②動線調査、③萩市ヒアリング

4) 利活用促進に向けたゾーニング検討

クルーズ船の外国人観光客を対象としたサービスやイベント開催時の利便性の向上の観点から、利活用促進に向けたゾーニング案を検討した。

4-1) クルーズ船寄港時の受入環境整備

既存港湾施設の改修・機能改善、港湾施設のユニバーサルデザイン化に加え、CIQ施設（マリナー萩での入出国管理、税関等）の機能拡充によるサービス向上等、クルーズ船の寄港増に対応するための受入環境整備を推進する。



図15 クルーズ船寄港時のゾーニング・動線案

4-2) イベント開催時の環境整備

防護柵や園路・スロープ、ステージの補修、おもいやり駐車場やトイレの改修（訪日外国人も対象）等により、イベント時の賑わい空間の創出、海沿いの散策や魚釣等の利活用を促進する。防災上の観点からも港湾緑地のオープンスペースを活かし、緊急輸送物資の一時保管、避難場所、ヘリポート候補地など、広域災害時の防災拠点としての利用も可能とする。

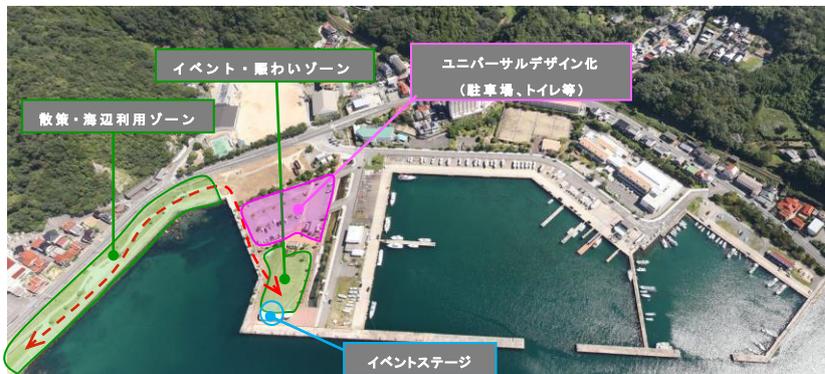


図 16 イベント時のゾーニング・動線案

5) 施設配置計画の検討

以上のゾーニング計画を踏まえ、クルーズ船寄港時の受入環境整備、イベント時の環境整備による利活用促進に向けた施設の改善について検討した。

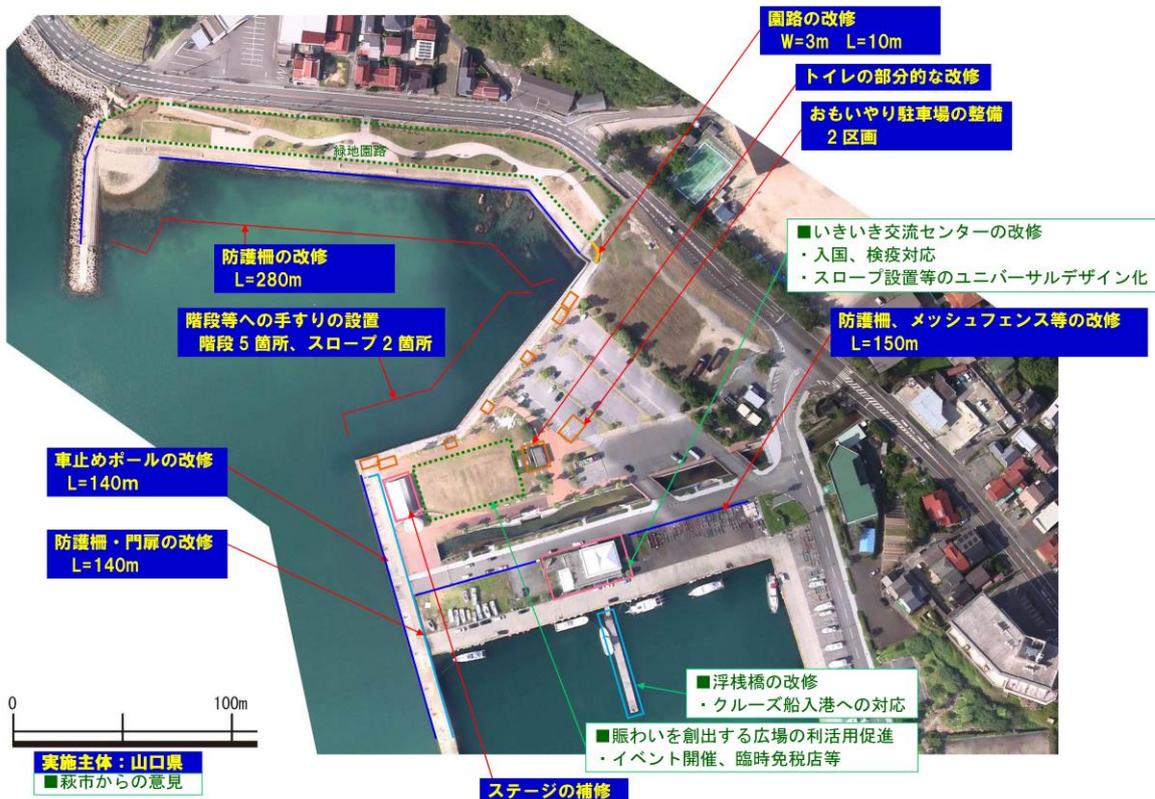


図 17 潟港地区の施設配置計画（案）と萩市の意見

④整備効果の検討

1) 菊ヶ浜地区海岸の整備効果

菊ヶ浜地区海岸では、海岸保全施設（突堤、養浜、護岸嵩上げ）等の整備による効果について表4に整理する。

表4 菊ヶ浜地区海岸の海岸保全施設整備による効果

効果の分類	期待される整備効果
地元ホテル等の営業収益の増加、新たな設備投資の誘発	<ul style="list-style-type: none"> オープンデッキの整備（ビーチレストラン、カフェ、海の家等）、海が見える露天風呂の改修や屋外チャペルの再開等の設備投資の誘発 地引網体験の復活、貸しボートやマリンスポーツの営業の拡充 修学旅行や林間学校等での利用増加、リピート率増加によるホテルの営業収益の増加、雇用創出効果、雇用者所得増加
交流機会の増加、イベント等の機会増加	<ul style="list-style-type: none"> 砂浜を利活用したスポーツや各種イベントの開催を通じた交流人口の増加 県内外客への萩市の魅力のPR
海岸の魅力の維持・向上	<ul style="list-style-type: none"> 砂浜の保全で、海水浴や観光客等の増加に繋がり、地域経済が活性化 海の家、露店等の増加により集客力が向上
維持管理コストの縮減	<ul style="list-style-type: none"> 侵食対策を実施することで、毎年のサンドリサイクルの維持費が軽減 市道への土砂堆積が緩和され、道路維持管理コストが縮減
防災機能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 侵食、高潮、飛砂対策による市民の生命・財産を守る防災機能の向上
更なる賑わいの創出に向けた萩市との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> 萩市との連携により、菊ヶ浜地区海岸の快適性や利便性の向上に期待される施設整備を推進し、訪れる観光客や周辺ホテルの宿泊客が増加、リピート率が向上

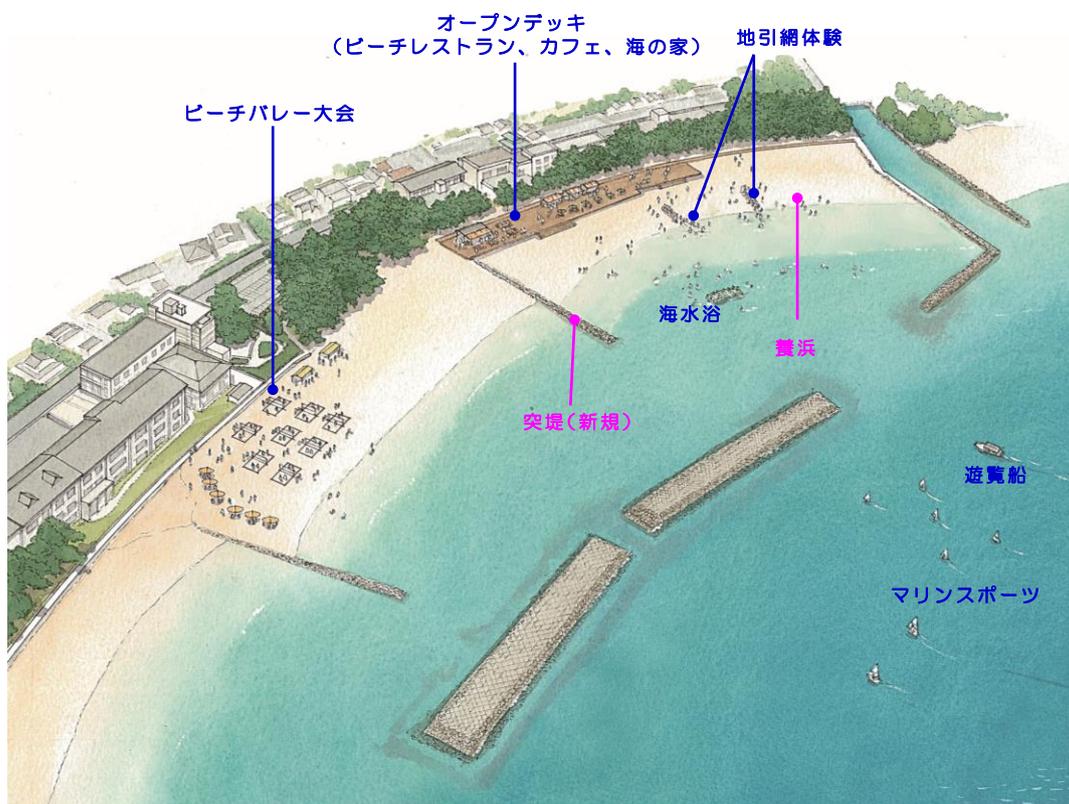


図18 地元ホテルによるオープンデッキ整備、ビーチレストラン、海を家の設置等の設備投資、地引網体験等の賑わい復活

2) 潟港地区の整備効果

潟港地区では、港湾施設の改修・補修（老朽化対策）、ユニバーサルデザインへの対応、港湾緑地の利活用促進等による効果について表5に整理する。

表5 潟港地区のクルーズ船受入環境整備等による効果

効果の分類	期待される整備効果
クルーズ船の寄港による経済効果	・ クルーズ船観光客増加による観光消費増加に加え、萩市の地域経済活動、雇用創出・所得増加による個人消費の活性化等
ホテル等の観光設備投資の誘発	・ 地元ホテル等の外国人観光客の受入環境整備、サービス向上の設備投資を誘発
ポートセールスの取り組み支援	・ 「クルーズやまぐち協議会」の官民連携した萩港へのクルーズ客船誘致活動の取り組みの支援
萩市の世界に向けた情報発信の促進	・ クルーズ船寄港時に免税店で萩の特産品の物販を行うことで、萩のブランド化や知名度向上による需要増 ・ クルーズ船寄港により、インターネットや SNS 等で情報が世界に発信され、萩の魅力や特産品等を求める外国人観光客が増加
萩市観光戦略との連携の深化	・ 外国人観光客を対象とした多言語化対応の観光案内版、案内所等の充実等、萩市等による外国人受入環境整備の促進
親水機能向上	・ 港周辺の水辺空間としての新たな価値の創出
広域災害時の防災拠点としての利用	・ 港湾緑地のオープンスペースを活かし、緊急輸送物資の一時保管、避難場所、ヘリポート候補地など、広域災害時の防災拠点としての利用も可能

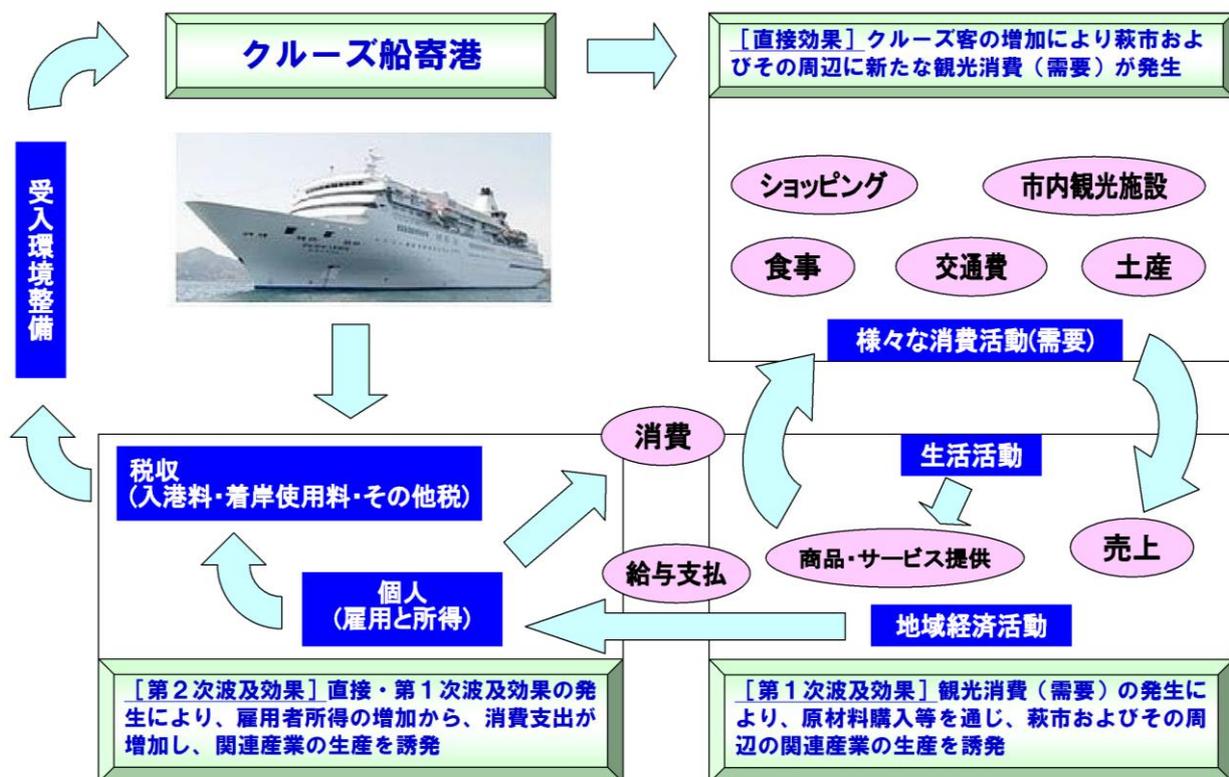


図19 クルーズ船寄港時による期待される経済効果イメージ

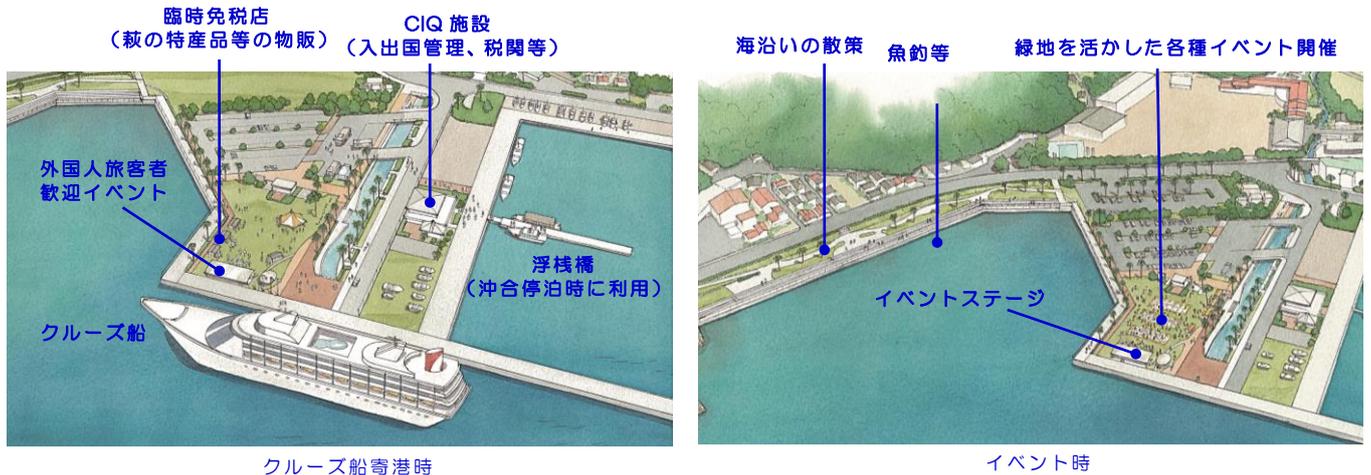


図 20 潟港地区の利活用促進、賑わいの創出

3) 萩港全体の整備効果

クルーズ船寄港時の萩市内観光ルートのひとつに萩城下町、萩城跡・指月公園と近接した菊ヶ浜地区海岸を組み込むことで、外国人観光客が白砂青松の砂浜、地引網体験や砂の芸術祭等のイベントの魅力インターネット、SNS等で情報発信することで、萩ブランドの向上、クルーズ船観光客の増加に繋がることが期待される。

また、外国人観光客が日本を旅行する際の来訪地のひとつとして、萩の菊ヶ浜地区海岸の認知度・魅力が向上することで、リピート率の増加、背後のホテル等でのインバウンド観光収益の増加にも繋がることが期待される。

3. 基盤整備の見込み・方向性

① 菊ヶ浜地区海岸

西側の高潮、侵食対策としての突堤、養浜の整備は、必要な浜幅の確保について、県で詳細な検討を進め、東側の高潮対策としての護岸整備は、萩市や地元関係者とともに、道路管理や景観等も踏まえ検討を進めていく。

平成 28 年度に事業化に向けた関係機関との調整を行い、平成 29 年度に測量・設計を行い、平成 30 年度の工事着手を目指す。

② 潟港地区

老朽化した港湾施設については、県で平成 27 年度から港湾施設の改修・補修を行っており、引き続き老朽化対策を速やかに実施していくとともに、ユニバーサルデザイン化への対応についても、萩市と調整を行い、事業実施に向けて取り組んでいく。

4. 今後の課題

菊ヶ浜地区海岸では、砂浜やビーチを利用した地元ホテルの設備投資や各種イベント等の開催による観光需要や観光客の増加による賑わいの創出等について、萩市やホテル、観光協会等の民間が主体となり進めていく必要がある。

潟港地区では、港湾緑地の利活用促進、クルーズ船寄港時の CIQ 施設（入出国管理、税関等）の機能拡充の対応について、萩市と観光協会等の民間が連携して、取り組んでいくことが求められている。また、ソフト対策として、クルーズ船寄港誘致による賑わい、活性化に向けた取り組みについて、県と萩市及び民間との連携により進めていく必要がある。